

製品名: カルネキシンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07862**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	90kDa

抗原情報

遺伝子名	CANX
別名	CANX; Calnexin; IP90; Major histocompatibility complex class I antigen-binding protein p88; p90
遺伝子 ID	821.0
SwissProt ID	P27824
免疫原	抗血清はヒトカルネキシン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 543-592

背景

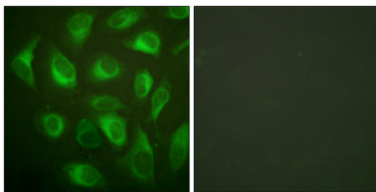
この遺伝子は、分子シャペロンのカルネキシンファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、カルシ

ウム結合性の小胞体 (ER) 関連タンパク質で、新しく合成された N 結合型糖タンパク質と一時的に相互作用し、タンパク質のフォールディングと組み立てを促進します。また、誤ってフォールディングされたタンパク質サブユニットを ER 内に保持して分解に供することで、タンパク質フォールディングの品質管理において中心的な役割を果たすと考えられます。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションも報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 小胞体で新しく合成された糖タンパク質と相互作用するカルシウム結合タンパク質。タンパク質の組み立てを補助したり、組み立てられていないタンパク質サブユニットを ER 内に保持したりする働きがあると考えられます。誤って折り畳まれたタンパク質を保持することで、ER の品質管理装置で重要な役割を果たしているようです。、オンライン情報:カルネキシンエントリ,類似性:カルレティキュリンファミリーに属します。、細胞内位置:ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画で質量分析によって特定されています。、

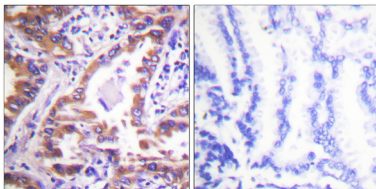
研究分野

抗原の処理と提示;

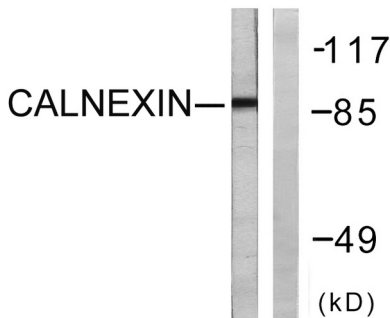
画像データ



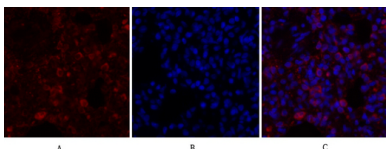
カルネキシン抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



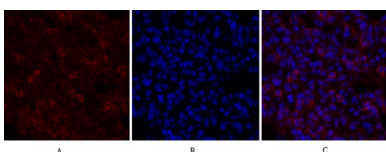
カルネキシン抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



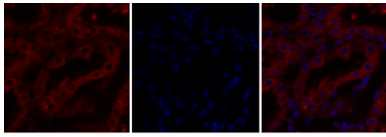
EGF 200 ng/ml 30 μ l で処理した HeLa 細胞ライセートの Calnexin 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



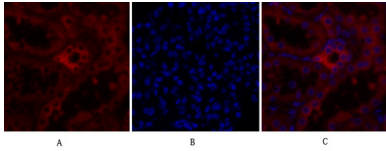
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, カルネキシンポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



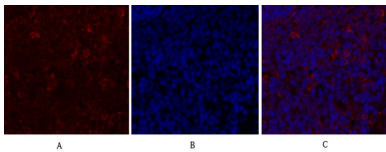
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, カルネキシンポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



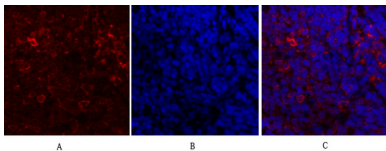
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, カルネキシンポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, カルネキシンポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, カルネキシンポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, カルネキシンポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。